

# 神戸の郷

万九千社 立虫神社 社報

第七〇号 令和二年秋「発行」  
令和二年九月吉日 代宮家（錦田）

## 今季の祭

## 立虫神社

## 秋祭（兼） 疫病退散祈願祭

皆様お変わりございませんか。  
厳しい残暑が続きますが、季節は  
ようやく爽やかな秋を迎えようとして  
います。



二日にわたって行われる当社の秋祭りは、稲をはじめとする農作物が豊かに収穫できたこと、農業をはじめ、工業、商業など全ての産業が順調に運んでいること、日々平和に暮らしていただけることなどを氏神さまに感謝と祈願をするお祭りです。

氏子地域に住む全ての人々が心を合わせて奉仕する、「大祭」と呼ばれています。

神様と神社の側から言えば、縁あって神立・千家に暮らす全ての人が「氏子さん」です。どんなにも遠慮なくお参りのうえ神様に感謝と祈りを捧げましょう。

また、このお祭りにあわせ、現在も国内外で災厄をもたらししている悪しき疫病の一刻も早い終息を祈る特別祈願祭も執り行います。



# 十月三日（土）

- 一、子禱神事
- 一、氏子入り奉告祭

午後三時より

令和元年八月一日から今年の七月三十一日頃までに誕生された神立千家の子供さんとその家族が参拝し、皆の健やかな成長をお祈りします。

また、昨年の秋祭り以後、新たに正式な氏子として仲間入りされた皆様にも御昇殿いただき、御神縁に感謝して、末永い幸せをお祈りする奉告祭を執り行います。

※当該の方は、平服（背広ネクタイ等）で時刻までに御参集下さい。



## 一、前夜祭

・深津一統祭 午後六時より

・竹内一統祭 午後七時より

立虫神社へ合祀された千家の客神社にゆかり深い氏子の竹内一統、古くから万九千社にゆかりある神立の深津一統が昇殿参拝します。

大祭前夜にあたり、一族挙げて感謝と祈りのまごころを捧げます。

## 十月四日(日)

### 一、大祭 祭典

(兼)疫病退散祈願祭

### 午前九時より

秋祭りでも最も重要な祭典です。宮司以下の神主・氏子代表が

昇殿し、古式に則って厳かに御奉仕します。

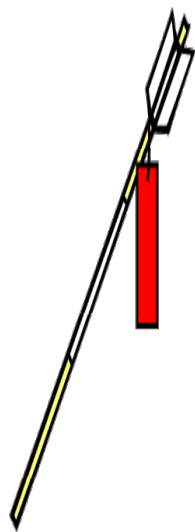


御神前にたくさんのお供え物をして、氏神さまをおもてなしし、宮司が祝詞を奏上し、皆が玉串を捧げて感謝の気持ちをお伝えして人々の幸と速やかな疫病退散を祈ります。

※※氏子さんのうち、秋祭りのお供え、お米当番の方は、午前

一〇時三〇分〜正午頃までに神社へお供え、御参拝下さい。

今年も、恒例の秋祭の御札、御洗米のほか、紅白餅、特別授与品として家内安全・疫病退散を祈願した破魔弓矢を無償頒布します。頒布品の重量がかさみますことを御承知おき下さい。



### 一、御神幸

本殿祭の後、午前一〇時二〇分頃に神社から元宮へ向けて、御分霊を神主が捧持し、総代らの行列が出発。元宮での御旅所祭を経て、午後〇時半頃に神社へ帰着、還幸祭を行います。

今年は、疫病感染予防のため例年の小学一年生がひくお神輿や神和会千神会の奉仕による御獅子、番内、茶立て姫などの賑々しい禱練り神事の行列、神事華、餅撒きは、やむを得ず全て取り止めます。

## 一、神楽奉納

午後一時半頃より夕刻まで  
◆午後一時半頃〜 出雲神楽

万九千社立虫神社神代神楽社中  
七座より

「清米」(きよめ)  
「四方剣」(剣舞)  
「悪切」(あくぎり)



◆午後三時二〇分頃〜御神楽  
『浦安の舞(うらやすのまい)』  
神立千家氏子小学生女子有志



◆午後四時頃〜 保育園の神楽  
『すさのおの命のやまたのおろち退治』  
あい川保育園社中

◆午後五時頃〜 出雲神楽  
神能より

『茅の輪』(ちのわ)  
須佐之男命の悪疫悪魔退散の神楽

万九千社立虫神社神代神楽社中

### 《あとがき》

▼疫病：日本と世界の人々は有史以来、幾たびとその災禍を克服し、たくましく生き抜いてきました。▼ここ出雲地方の歴史を紐といても、古代以来、コレラや赤痢、結核、スペイン風邪など重篤な病状をもたらす悪疫を幾たびも乗り越えてきました。▼明けない夜はありません。ここは一つ、疫病の力を甘く見ず、かといって過度に恐れず、皆が正しい知識と行動を共有しながら乗り切つてまいりましょう。▼そして感染者やその家族、関係者に対する偏見や差別は実に愚かなことです。絶対に避けなければなりません。▼どうか今年の秋祭りが恙なく齋行され、疫病退散の願い



が一日も早く天地の神様に届きますように…。

(文責 宮司 錦田剛志)

# 縁結んだ箸に感謝

## 万九千神社 初のお焚き上げ祭

出 雲



箸が供えられた齋場で「清米」を舞う錦田剛志宮司(中央)

出雲市斐川町併川の万九千神社(錦田剛志宮司)で「箸の日」の4日、「御箸」して使わなくなった箸を境

内に設けた齋場でたき上げ、関係者が数々の縁を結んできた箸に感謝した。

自社商品「縁結び箸」などを販売する同市平田町の「ひらの屋」(平野裕二社長)が企画した。これまで県外の神社に託して供養してきたが、同神社の協力が得られ、今年から念願の地元実施にこぎ着けた。

この日は、平野社長ら関係者6人が参列。齋場には全国各地から寄せられた箸約1700膳が供えられ、齋主の錦田宮司(51)が祝詞を奏上した後、火炉に火をつけて箸の一部を炊き上げ、奉納者の除災招福、弥栄を祈願。はらい清めの舞「清米」も奉奏した。同社は、平田本町商店街

にある本社のほか出雲大社門前の神門通りに大社店を営み、出雲大社参拝者らから使用しなくなった箸について相談を受け、供養を発案。大社店の店頭に「お箸おかえり箱」も設置し、自社製品かどうかにかかわらず郵送分も含めて使わなくなった箸を引き受けている。同社の平野英宏取締役営業部長(33)は「箸は命を運んでくれる大切なもの。箸事業を観光への橋渡し役になるよう育てたい」と話している。(松本稔史)

〔典故〕 『山陰中央新報』

令和二年八月六日(木) 朝刊転載

★去る八月四日(火)、縁結び箸で有名な有限会社ひらの屋さんが祈願主となり、全国から寄せられた約一七〇〇膳のお箸のお焚き上げ祭を行いました。

★今年初回は、時節柄、広報を控えましたが、疫病終息後は多くの方々にこの祭事を知って頂き、盛大に奉納者の除災招福、弥栄をお祈りして参ります。

地元の皆様にも御理解と御協力、御参拝いただき、末永く齋行できますよう念願しています。